

## 設置の趣旨等を記載した書類

### ア．設置の趣旨及び必要性

#### (1) スポーツ科学科設置の趣旨

人間社会学部は、開設以来、社会文化学科と福祉心理学科のもとに、社会・文化・福祉・心理を柱にして、これら人間にかかわりのある人間諸科学を対象に、人間と社会のかかわりを探究し、『ひとの幸せのために、優しさと勇気をもって社会に貢献できる教養ある人材を養成する』ことを目指してきた。さらに、これらの諸科学にスポーツ・体育を加え、現在、社会問題となっている若者の心の病や少子高齢化時代における福祉政策の問題などの解決に向けて、さらに踏み込んで社会に貢献できる教養ある優れた人材の養成をはかるために人間スポーツ学科を設置した。

これらにより、人間社会学部の教育は、「ひととひととのつながりとは 社会の視点」、「こころの豊かさとは 文化の視点」、「他者とともに生きることとは 福祉の視点」、「こころのしくみとは 心理の視点」、「ひとのこころとからだとは 健康・スポーツの視点」のもとに、人材の養成を目指して、教育研究環境の整備と充実に努めている。

しかしながら、スポーツにおける社会的ニーズとして、国民の健康の維持増進、スポーツ観戦の増大によるスポーツ競技力の一段の向上、スポーツ関連産業の発展・増大などに応えるために、スポーツ選手や体育学分野の人材の要請が増大している。現代社会の諸問題への対処をはかりながら、これらの要請に応える人材を養成するためには、スポーツを人間諸科学の観点からより科学的に探究することが一層必要になっている。

このことから、スポーツを人間諸科学の総合的な視点から探究するスポーツ科学科を設置することとした。

#### (2) スポーツ科学科設置の必要性と定員設定

人間社会学部は、学部の現状と課題について継続的な改善に取り組んできているが、特に社会文化学科の定員充足がここ数年来の大きな課題となっている。そのために次のような認識を持って取組を行ってきた。

学外からは学科名称の「社会文化」が何を学べる学科かわかりにくいといわれてきた。人間社会学部は教養学部を改組した学部であり、社会文化学科はこの教養学部の「教養」を継承してきた学科であるが、名称の「社会文化」の根底にある「教養」が理解されにくくなってきていることが大きく関係している。その結果が、入学定員の充足率に影響を大きく与えていると考えられる。

そこで、人間社会学部のもつ社会、文化、福祉、心理の4つの専門領域と多様な専門科目をもつことの特色を活かし、学内外にこの特色が理解されるようにするために、学科にまたがった横断的な学習ができる「10の学びのコース(履修モデル)」を設置し、学部・学科の特色とともに何が学べるかを明確にしてきた。このコースの設置においては、スポーツに関連したコースとして、スポーツの意義や役割を社会・文化・福祉・心理の視点から学ぶ「スポーツ文化コース」と、健康福祉に係るスポーツの有為性の面から障害や疾病を負っている人の生活環境を理解し、安心して暮らせるような生活を支援する方法を学ぶ「健康ライフコース」を設けている。そして、スポーツ関連の科目として、「ス

スポーツ文化論」「スポーツウエルネス」「スポーツ心理学」「生涯スポーツ論」「ダンスファンダメンタル」を新設して教育を行っている。その結果、スポーツ系の志願者の増加により定員の充足をはかることができたが、次のような課題が生じてきた。

クラブ活動の所属学生に、「学生生活に関する意識調査」を実施したところ、「カリキュラムの中にもっとスポーツ分野の科目を設置してほしい」という多数の回答とともに、資格についても保健体育教員資格、スポーツ指導者資格などを求めていることがわかり、社会文化学科の「スポーツ文化コース」ではこれらの要請に応えるには限界があることから、人間スポーツ学科を設置した。

しかし、スポーツを除く「社会文化」領域の志願者の未充足の状態を改善するに至っていない。

以上の経過から、学部改革にあたっては、次の点を留意して改革を行うことにした。

第一に、社会文化学科は、その学科名称も含めて学外から見て、学科の教育内容が理解されにくく、現状での改善は困難であること。

第二に、人間スポーツ学科を設置したが、さらにスポーツを人間諸科学の総合的な視点から充実させ、スポーツの社会的ニーズに応えるためにトップアスリートの人材養成とその指導者の人材養成を図る必要があること。

第三に、人間スポーツ学科の志願者の動向から、1学科では、前述の社会的ニーズを含め対応するには限界があること。

以上の改革をはかるため、社会文化学科の募集を停止し、社会文化学科の定員を増して新たにスポーツ科学科を設置し、既設の福祉心理学科、人間スポーツ学科との3学科の構成にすることとした。

### (3) 教育研究上の目的と養成する人材像

#### (a) スポーツ科学科の教育研究上の目的と養成する人材像

スポーツ科学科は、社会学・社会福祉学の専門領域と健康・スポーツの視点にかかわる体育学の専門領域を含む学際領域をもつ学科とすることにより、社会・文化・福祉・心理・スポーツを柱とする人間にかかわりのある人間諸科学の総合的な視点からスポーツの知識及び技能のみならず、幅広く深い国際的な教養と総合的な判断力・行動力、豊かな人間性を兼ね備えたスポーツ競技者（トップアスリート）及びその指導者を目指す人材を養成する。このことにより、社会的ニーズに応えとともに社会に貢献することを教育研究の目的とする。

スポーツ科学科は、この教育目的にそって、次のような人材を養成する。

- ( ) トップアスリートとして活躍できるために必要なパフォーマンス（競技力）向上のための科学的なトレーニングや体力づくりのための健康・栄養に関する知識と実践能力を有し、さらに社会・文化・福祉・心理の人間諸科学の総合的な視点から国際感覚を身につけ、国際的な視野で理解と判断を行い行動できるスポーツ競技者などの人材を養成する。
- ( ) トップアスリートをはじめとするスポーツ競技者のパフォーマンス（競技力）向上をはかることができる指導者として、スポーツ科学の基礎知識に基づくトレーニングやスポーツ傷害予防・応急処置の実践技法を有し、社会・文化・福祉・

心理の人間諸科学の総合的な視点から国際感覚を身につけ、国際的な視野で理解と判断を行い行動できるスポーツトレーナーなどの人材を養成する。

(b) スポーツ科学科と既設の人間スポーツ学科の教育研究上の目的の違い

人間スポーツ学科の教育研究上の目的は、スポーツの意義を「生涯スポーツ」あるいは「健康スポーツ」の観点から、社会・文化・福祉・心理の幅広い視野から学び、本学の教育理念である「真の国際人」として、グローバルな視野と地域の視野から貢献できる次のような「多様な支援者及び指導者」を養成することである。

( ) スポーツ文化、地域福祉、福祉政策、子どもや高齢者の心理などを理解し、子どもから高齢者のすべての人々が、スポーツやレクリエーションを楽しみながら、生涯にわたって健康で豊かな生活の送り方を支援・指導することができる人材を養成する。

( ) 体育学のみならずスポーツ文化、子どもや障害者の心理などを理解し、学校教育、障害者スポーツなどの幅広い領域におけるスポーツ活動の指導ができ、さらにスポーツを通して国際関係や異文化に対する理解を深めた真の国際交流を担うことができる人材を養成する。

これらから、人間スポーツ学科とスポーツ科学科の教育研究上の目的及び養成する人材像の違いは、人間スポーツ学科の目指す「多様な支援者及び指導者」を養成することとは、スポーツ活動を支援するジェネラリストとしての人材を養成することである。これに対して、スポーツ科学科の「一流のスポーツ競技者(トップアスリート)及びその指導者」を養成することとは、人間諸科学の総合的な視点、特に心理とスポーツ科学の視点を深め、国際感覚を身につけたスポーツ活動のスペシャリストとしての人材を養成することである。

(4) 学部の教育理念・教育目的の維持

人間社会学部の教育理念は、人間と社会のかかわりを探究し、『ひとの幸せのために、優しさや勇気をもって社会に貢献できる教養ある人材を養成する』ことにあり、この理念にそって、社会・文化・福祉・心理・スポーツを柱に、さまざまな理論と実践的方法を学び、社会貢献できる教養ある優れた人材を育成することを教育目的としている。

スポーツ科学科を設置するにあたって、社会文化学科がもつ社会・文化の専門領域は、人間社会学部の教育基盤と位置づけ、学部の教育目的として維持していく。具体的には、社会文化学科のもつ専門領域の主要な科目は、次のように人間社会学部において継承し、さらにスポーツ科学科として必要な科目の拡充をはかっていく。

( ) 人間社会学部では、社会・文化・福祉・心理・スポーツを柱とする人間にかかわりのある人間諸科学の専門領域の基礎的な理解を深めるための専門科目を学科間共通専門科目として配置している。人間スポーツ学科の設置時において、学科間共通専門科目の中で各専門分野の基礎となる概論的な専門科目として、「社会学概論」「文化人類学概説」「社会福祉概論」「心理学概論」「国際スポーツ文化論」の5つの科目を配置している。これらの専門科目を維持することにより、社会と文化の柱を継承していく。

- ( ) 上記以外の学科間共通専門科目においても、社会と文化に関連する専門科目「ひととことば」「西洋史概説」「東洋史概説」「日本史概説」「人文地理学」「質的調査法」を継承していく。
- ( ) 人間スポーツ学科のライフサポート系専門科目において、社会と文化に関連し、子どもや文化、地域社会を理解するのに必要な科目として「社会調査論」「子ども文化論」「遊び文化論」「比較舞踊論」「地域社会学」「地域文化特講」を継承している。
- ( ) 新設するスポーツ科学の専門科目においては、社会と文化に関連し、子どもや地域文化を理解するのに必要な科目として「社会調査論」「社会調査実習」「家族社会学」「現代社会特講」「子ども文化論」「遊び文化論」「比較舞踊論」「地域文化特講」を継承するとともに、より幅広く人間理解を育成するための科目「身体と絵画表現」を設置する。

#### イ．学部、学科等の特色

社会・文化・福祉・心理・スポーツを柱とする人間にかかわりのある人間諸科学の総合的な視点からスポーツの知識及び技能のみならず、幅広く深い国際的な教養と総合的な判断力・行動力、豊かな人間性を兼ね備えたスポーツ競技者（トップアスリート）及びその指導者を目指す人材を養成することを教育研究の目的とすることから、次の特色をもつ教育を行う。

- ( ) スポーツ競技者（トップアスリート）として、スポーツ分野において第一線で活躍した経験豊かな優れた指導者・教員のもとでの心理をはじめとする理論と実践の両面からの教育
- ( ) 指導者として、「幅広い職業人養成」を目指した教育
- ( ) 国際性と豊かな人間性を身につけるために、スポーツの意義を社会・文化・福祉・心理の幅広い視野から学ぶ教養・人格教育
- ( ) 本学坂戸キャンパスに設置されている IT 機器を含む優れたスポーツ関連施設を活用したトレーニング法などの科学的教育

これらの特色において、上記( )の指導者としては、硬式野球部監督には古葉竹識（広島・横浜大洋元監督）、駅伝部総監督には横溝三郎（東京オリンピック 3000m 障害日本代表、箱根駅伝などのテレビ解説者として活躍）、ゴルフ部名誉監督にはラリー・ネルソン（全米オープンなどメジャー大会で 3 勝をあげたプロゴルファー）を迎え、教員としては、サッカー部監督の前田秀樹（元日本代表、J2 水戸元監督）、女子ソフトボール部総監督の宇津木妙子（オリンピック元日本代表監督）、女子ソフトボール部監督の三科真澄（元オリンピック金・銅メダリスト）、ゴルフ部監督の並木弘道（プロゴルファー）、女子サッカー部監督の大竹七未（全日本選手権 4 連覇、日本女子リーグ 3 連覇などフォワードで活躍した元女子サッカー選手）、駅伝部監督の大志田秀次（箱根駅伝出場、8 区で区間 1 位を獲得し活躍した元陸上選手）、硬式野球部助監督の古葉隆明（東京六大学野球で活躍した元プレーヤー）、テニス部監督の佐藤直子（全豪オープンダブルス準優勝、ウィンブルドン出場 14 回など国際的に活躍したプロテニスプレーヤー）、チアリーディング部アドバイザーの寺山喜久（全日本選抜チアリーディング選手権大会・全日本学生チアリーディング選手権大会など種々の大会において数々の入賞の競技指導）、チアリーディング部監督の津田麻希子（全日本選

抜チアリーディング選手権大会・全日本学生チアリーディング選手権大会など種々の大会において数々の入賞と競技指導)を迎え、これらの国内外の試合経験豊かな一流の指導者のもとで、技術の教授とともに、スポーツを通じた強靱な精神力・制御力・協調性と国際感覚を身につけたコミュニケーション力などの人間形成を図るものである。

さらに上記の特色( )におけるトレーニング法などの科学的教育を行うためのスポーツ関連施設としては、本学坂戸キャンパスに平成 19 年度より約 17.2 万㎡の総合グラウンドの整備事業を実施してきた。総合グラウンドの第 1 グラウンドは、公式試合を行える野球場とサッカー場及びフットサルコートを整備し、第 2 グラウンドは、第 2 野球場、第 2 サッカー場、フットサルコート及びアーチェリー場を整備した。

さらに、授業教育の場とクラブ指導の場を併せもった複合施設であるフレンドシップハウスを完成した。平成 22 年度にはゴルフ&スポーツサイエンスラボラトリーを完成させた。この施設内のゴルフ練習打席には、身体運動科学及び運動姿勢評価システムとして、モーションキャプチャー、フォースプレート、筋電計を配置し、運動解析のためのデータを収集し、これらのデータを分析するためのパソコンとソフトを導入する。

併せて、第 2 グラウンドの隣接地に第 3 グラウンドを開発し、400 メートルトラック(6 レーン)競技場、直線 6 レーンの全天候型走路と人工芝の競技場を整備し、さらに、ソフトボール場(センターまで 80m)及び多目的グラウンドを平成 24 年 3 月までに完成する予定である。

#### (a) スポーツ科学科の学びのモデルコース

前述の特色を活かした教育のもとに、スポーツ科学科は、次の 2 つの学びのモデルコースにより人材の養成をはかる。

##### 1) 競技スポーツコース

トップアスリートを目指し、スポーツを通して地域文化や地域福祉に対する理解も深め、健康・栄養管理、スポーツトレーニング、メンタルトレーニングなどの競技力向上に効果のある科学的・専門的な知識・トレーニング法及び健康の維持増進の方法を学び、教員免許(保健体育) スポーツリーダー(競技別指導者) サッカー C 級コーチ、サプリメントアドバイザーなどの資格を取得するとともに、競技者自身の競技力や体力向上、コンディショニングの調整・管理を行えるスポーツ競技者として国際社会で活躍できる人材を養成する。

##### 2) スポーツトレーナーコース

トップアスリートをはじめとするスポーツ競技者の指導者を目指し、スポーツ心理、スポーツトレーニング、メンタルトレーニング、健康・栄養管理など競技力向上に効果のある科学的・専門的な知識・トレーニング法及び健康の維持増進の方法、スポーツ傷害予防・応急処置の方法などを学び、教員免許(保健体育) スポーツリーダー(競技別指導者) アスレティックトレーナー、ピアヘルパー、パーソナルトレーナー、サプリメントアドバイザーなどの資格を取得するとともに、スポーツ競技者の競技力の向上を指導できるスポーツ科学の専門家として社会に貢献できる人材を養成する。

(b) スポーツ科学科と既設の人間スポーツ学科の学びのモデルコースの違い

人間スポーツ学科は、多様な支援者及び指導者としての人材を次の2つの学びのモデルコースにより養成する。

1) ライフデザインコース

子どもから高齢者のすべての人々が、スポーツやレクリエーションを楽しみながら、生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための健康ライフを地域社会の文化振興・健康増進施策において支援・指導することができる人材を養成する。このコースでは、スポーツ文化、子どもの心理、社会福祉、地域福祉、福祉政策などの理解と、文化振興や健康増進に必要な健康、栄養、運動、野外教育、処々の施策に関する専門知識と実践方法を学び、教員免許（保健体育）、レクリエーション・インストラクターなどの資格を取得することにより、学校・行政において活躍できる人材、あるいは地方自治体や民間のスポーツ・レジャー施設やフィットネスクラブ、企業などにおいて、レクリエーション指導、健康の維持増進などの指導に携わることができる人材を養成する。

2) スポーツ教育コース

コーチやトレーナーなどのスポーツ指導者になるため、あるいはアスリートとして活躍できるようになるために、スポーツ教育やスポーツ指導のできる人材を養成する。このコースでは、スポーツを通して国際関係や異文化に対する理解も深める。健康管理、スポーツ心理、スポーツトレーニングなど競技力向上に効果のある科学的・専門的な知識と指導法・トレーニング法、健康の保持と向上の方法を学び、教員免許（保健体育）、スポーツリーダー、サッカーC級コーチなどの資格を取得することにより、学校・行政において活躍できる人材、あるいは地方自治体や民間のスポーツ施設においてアスリートの競技力や体力向上、コンディショニングの指導に携りながら国際社会で活躍できる人材を養成する。

これらの学びのモデルコースにおいて、スポーツ科学科の2つの学びのモデルコースは、人間スポーツ学科のスポーツ教育コースをさらに、人間諸科学の総合的な視点からスポーツの知識及び技能のみならず、幅広く深い国際的な教養と総合的な判断力・行動力、豊かな人間性を兼ね備えたスポーツ競技者（トップアスリート）及びその指導者としてのスペシャリストを目指す人材を養成するために洗練した教育を目指すものであり、そのための指導者及び教員を迎えている。

ウ．学部、学科等の名称及び学位の名称

人間社会学部のもとに、スポーツを人間諸科学の総合的な視点から探究することを教育目的とすることから、学科の名称を「スポーツ科学科」とし、学位の名称は学士（スポーツ科学）とする。学部、学科及び学位の英語名称は次の通りである。

学部名称：人間社会学部	School of Human and Social Sciences
学科名称：スポーツ科学科	Department of Sport Sciences
学位名称：学士（スポーツ科学）	Bachelor of Sport Sciences

## エ．教育課程の編成の考え方及び特色

### (1) 科目区分の設定及びその理由

スポーツ科学科は、社会・文化・福祉・心理・スポーツを柱とする人間にかかわりのある人間諸科学の総合的な視点からスポーツの知識及び技能のみならず、幅広く深い国際的な教養と総合的な判断力・行動力、豊かな人間性を兼ね備えたスポーツ競技者（トップアスリート）及びその指導者を目指す人材を養成することを教育研究の目的としている。

この教育目的を達成するために、教育課程の科目は、これまでの学部の基本的な科目構成の枠組みである1年次に教養教育を行うための科目区分「基本分野」と、主に2年次からの高い専門教育を行うための科目区分「専門分野」の構成のもとに体系的に編成する。

さらに、科目区分「専門分野」の科目については、福祉心理学科、人間スポーツ学科、スポーツ科学科の学科間に共通の専門教育を行うための科目区分「学科間共通専門科目」を配置し、3学科それぞれの専門教育を行うための科目区分「学科固有専門科目」を配置し、体系的なカリキュラムを編成している。

スポーツ科学科の科目区分「学科固有専門科目」は、さらにスポーツ競技者（トップアスリート）及びその指導者を目指す人材を養成するという教育研究の目的に沿った体系的な教育体系になるように次のように編成する。編成にあたっては、スポーツ科学科のもつ体育学関係と社会学・社会福祉学関係の2つの複合した専門領域を考慮した専門科目を配置する。

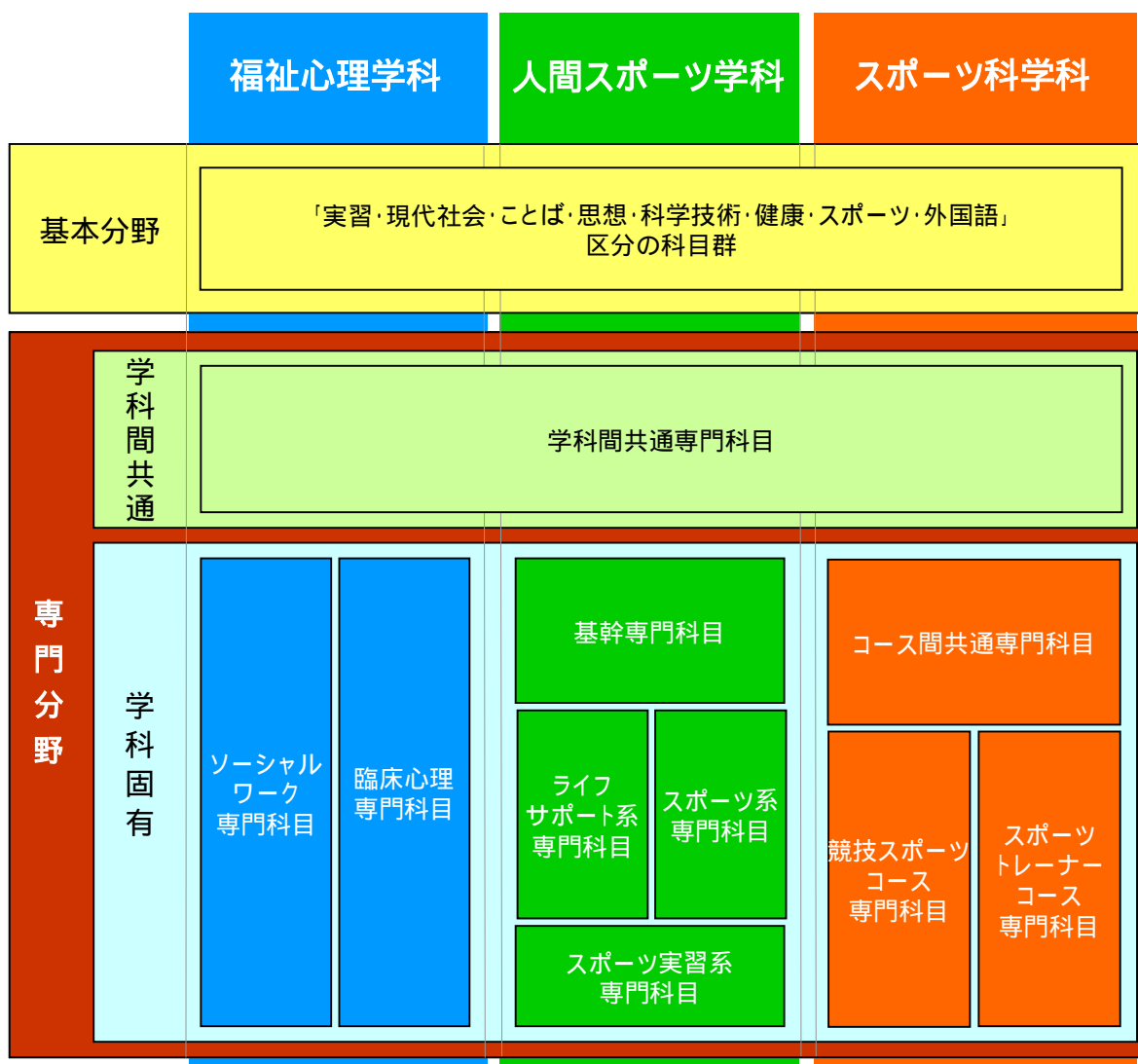
- ( ) 教育研究の目的に沿った2つの学びのモデルコースにあわせた科目区分を編成する。すなわち、競技スポーツコース向けの科目区分「競技スポーツコース専門科目」、スポーツトレーナーコース向けの科目区分「スポーツトレーナーコース専門科目」及びそれらのコースに共通的な科目区分「コース間共通専門科目」から編成する。
- ( ) 1年次から学びのモデルコースに沿った専門科目の履修を可能にするが、各自の学習目標と進路によって2年次に学びのモデルコースを確定させるようにする。そのために専門科目の履修に関しては、必修となる主要科目は、科目区分「学科間共通専門科目」及び科目区分「コース間共通専門科目」において必要最小限に配置し、このことによって、学生の学びの選択の自由度を高めるように配慮する。

これらの編成において、一部の専門科目は人間スポーツ学科の科目を継承しているが、スポーツ科学科固有の専門科目を多数配置することによって、人間スポーツ学科とは明確に異なる教育体系となるようにしている。

スポーツ科学科のカリキュラムの編成を資料Aに示す。

人間社会学部の教育課程の体系において、スポーツ科学科の教育課程の位置付けは次のように図示される。

### 人間社会学部の教育課程の体系



#### (2) 各科目区分の科目構成とその理由

##### (a) 科目区分「学科間共通専門科目」

人間社会学部の教育目標を達成するために、社会・文化・福祉・心理・スポーツを柱とする人間にかかわりのある人間諸科学の専門領域の基礎的な理解を深めるための選択必修の専門科目を配置している。特に、各専門分野の基礎となる概論的な専門科目「社会学概論」「文化人類学概説」「社会福祉概論」「心理学概論」及び健康・スポーツ専門分野の概論的な専門科目として「国際スポーツ文化論」の5科目を1年次から配置している。さらに社会・文化・福祉・心理・スポーツの分野で共通的な専門科目として、「総合講座」「社会情報学」「社会心理学」「発達心理学」「医療社会論」「対人関係論」「組織コミュニケーション論」「ひととことば」「西洋史概説」「東洋史概説」「日



本史概説」「人文地理学」「質的調査法」「スポーツ心理学」「スポーツ社会学」「生涯スポーツ論」「スポーツウエルネス」「スポーツメディア論」「ダンスファンダメンタル」「インターンシップ」「ボランティアワーク」「キャリアプランニング . . . 」「海外ゼミナール ( 1 )」の 25 科目を 1 年次から 3 年次に、「特別実習 . . . 」の 4 科目を 1 年次から 4 年次に配置している。

これらの専門科目の中で、2 年次に配置する「スポーツ心理学」を必修科目としている。

( b ) スポーツ科学科固有の科目区分「コース間共通専門科目」

2 つの学びのモデルコースに共通した専門科目 49 科目を配置している。

必修科目としてはスポーツ科学分野における 2 つの学びのモデルコースに共通的な主要科目として 5 科目を、「解剖生理学」「スポーツ生理学」「スポーツ栄養学」を 1 年次に、「スポーツ解剖学」「スポーツ医学」を 2 年次に配置している。

選択必修の科目としては、「スポーツ哲学」「体育史」を 1 年次に、「生涯教育論」を 3 年次に配置している。スポーツとからだところの仕組みを理解するのに必要な科目として「運動機能解剖学」「衛生・公衆衛生学」「健康管理概論」「健康心理学」「健康栄養学」「学校保健」「学校安全保健」「教育心理学」「臨床心理学」「子どもの心理臨床」「精神分析学」を 1 年次から 3 年次に配置している。スポーツ競技者(トップアスリート)及びその指導者の立場から、スポーツを通して地域文化や地域福祉に対する理解も深めるために、スポーツとビジネス活動・報道、社会・文化・福祉に関連した科目として「スポーツ経営学」「スポーツビジネス論」「スポーツジャーナリズム」「スポーツ英語」「社会調査論」「社会調査実習」「家族社会学」「現代社会特講」「子ども文化論」「遊び文化論」「比較舞踊論」「身体と絵画表現」「地域文化特講」「地域福祉論」を 2 年次から 3 年次に配置している。

選択必修の実習科目として、「スポーツ科学実習：陸上競技初級」「スポーツ科学実習：サッカー初級」「スポーツ科学実習：サッカー初級」「スポーツ科学実習：ダンス初級」「スポーツ科学実習：器械体操初級」「スポーツ科学実習：バスケットボール初級」「スポーツ科学実習：バレーボール初級」「スポーツ科学実習：ソフトボール初級」「スポーツ科学実習：ゴルフ初級」「スポーツ科学実習：柔道初級」「スポーツ科学実習：野球初級」「スポーツ科学実習：テニス初級」「スポーツ科学実習：水泳」を 1 年次から 2 年次に配置している。その他に、「夏期野外実習」「冬期野外実習」「レクリエーション実習」を 2 年次から 3 年次に配置している。

( c ) スポーツ科学科固有の科目区分「競技スポーツコース専門科目」

競技スポーツコース向けに選択必修の 32 科目を配置している。

競技力向上に効果のある科学的・専門的な知識・トレーニング法及び心理的方法を学ぶために、「スポーツ運動学」「スポーツバイオメカニクス」「動作分析法」「スポーツ戦術論」「スポーツ指導者論」「スポーツトレーニング論」「コンディショニング論」「メンタルトレーニング論」を 2 年次から 3 年次に配置している。

スポーツ競技者(トップアスリート)の立場からスポーツの政策、地域貢献などを学ぶために、「スポーツ政策」「スポーツ法学」「スポーツ教育学」「地域スポーツ論」「発

育発達論」を2年次から3年次に配置している。

競技スポーツコース向けの実習・演習科目として、「コンディショニング実習」「コンディショニング演習」「メンタルトレーニング演習」「スポーツ科学実習：陸上競技上級」「スポーツ科学実習：サッカー上級」「スポーツ科学実習：サッカー上級」「スポーツ科学実習：ダンス上級」「スポーツ科学実習：器械体操上級」「スポーツ科学実習：バスケットボール上級」「スポーツ科学実習：バレーボール上級」「スポーツ科学実習：ソフトボール上級」「スポーツ科学実習：ゴルフ上級」「スポーツ科学実習：柔道上級」「スポーツ科学実習：野球上級」「スポーツ科学実習：テニス上級」「上級サッカー」「上級サッカー」「上級ゴルフ」「上級ゴルフ」を1年次から2年次に配置している。

(d) スポーツ科学科固有の科目区分「スポーツトレーナーコース専門科目」

スポーツトレーナーコース向けに選択必修の21科目を配置している。

トップアスリートをはじめとするスポーツ競技者の指導者として、スポーツ指導法を学ぶために、「アスレティックトレーナー論」「アスレティックリハビリテーション論」「スポーツ外傷・障害」「スポーツ外傷・障害」「障害者スポーツ論」「運動療法論」「体力測定評価」「運動処方論」「スポーツコーチング論」「運動トレーニング基礎理論」「救急・応急処置」「カウンセリング」を1年次から3年次に配置している。

スポーツトレーナーコース向けの実習・演習科目として、「スポーツ生理学実習」「アスレティックリハビリテーション演習」「アスレティックリハビリテーション実習」「アスレティックトレーナー現場実習」を3年次に配置している。

(e) スポーツ科学科の演習科目

本学では、全学部とも1年次から4年次まで、少人数による演習（ゼミナール）を必修としている。スポーツ科学科は、1年次に基本的な学習スキルの習得を主目的に科目区分「基本分野」に「演習」を、2年次から4年次は専門ゼミとして科目区分「学科間共通専門科目」にそれぞれ「演習」、「演習」を配置している。特に「演習」、「演習」の学びの成果をまとめる必修科目として4年次に「卒業研究」を配置している。

(f) 科目区分「基本分野」

人間社会学部は、同一キャンパスに設置されている国際関係学部とともに、「基本分野」の講義・実習科目について、本学の「真の国際人の養成」の教育理念のもとに、1年次に基礎教養を身につけるといった共通の目標に沿って科目の共通化をはかり、「実習」「現代社会」「ことば・思想」「科学技術」「健康・スポーツ」「外国語」の区分に授業科目を配置している。スポーツ科学科の学生には、基本分野の教養的な「健康・スポーツ」の区分科目についての履修は避け、スポーツ科学科固有の科目区分「スポーツ実習専門科目」の科目を履修するように指導する。

## オ．教員組織の編成の考え方及び特色

本学部の教育課程は、科目区分「基本分野」と科目区分「専門分野」の構成のもとに、幅広い教養と高い専門性を身につけるための多彩な講義科目と実習科目を配置している。この区分の構成のもとに、前述したように社会学・社会福祉学と体育学の専門領域をもつ新たなスポーツ科学の教育課程を組み込み、既設学科の質の高い教育・研究活動を維持するとともに、新たな質の高い教育・研究活動を行えるように教員を配置する。具体的には、スポーツ科学は、専任教員 20 名（教授 9 名、准教授 6 名、講師 4 名、助教 1 名）で教員組織を編成する。教員の専門分野では、体育・スポーツ分野に 9 名、社会文化分野に 4 名、福祉心理分野に 7 名を配置している。その年齢構成は、完成年次には次表のようになり、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障がない構成となっている。

教員の研究分野別の年齢構成

研究分野 \ 年齢	40 歳未満	40 歳代	50 歳代	60 歳代	計
体育・スポーツ分野	1	3	4	1	9
社会文化分野			3	1	4
福祉心理分野		1	3	3	7
計	1	4	10	5	20

## カ．教育方法，履修指導方法及び卒業要件

### (1) 教育方法

授業の方法は、講義、演習、実習を効果的に組み合わせで行う。本学において共通の枠組みで構成されている 1 年次から 4 年次までの演習（ゼミナール）は 15 名程度での少人数で行っている。スポーツ実習系については履修者を 30 名程度に制限し、教育効果が低下しないように配慮する。講義については、大規模教室をできるかぎり避け、教室の収容人数で制限する。

### (2) 履修指導方法

資格取得と将来の進路に対応して、基礎から専門にいたる科目を系統的かつバランスよく履修できる履修計画が立てられるように履修モデルを学生に提示し、履修指導を行う。2つの学びのモデルコース「競技スポーツコース」と「スポーツトレーナーコース」における履修モデルを資料Bと資料Cに示す。

各年度に履修登録できる単位数は、48 単位を限度としている。

### (3) 卒業要件

本学部の卒業に必要な単位数は 124 単位であり、その卒業要件は次表を満たすものとする。

卒業要件：卒業に必要な授業科目区分の単位数表

授業科目区分		福祉心理学科	人間スポーツ学科	スポーツ科学科				
基本分野教育科目	必修	演習	4 単位					
	選択必修	実習 現代社会 ことば・思想 科学技術 健康・スポーツ 外国語(英語を除く)	20 単位					
	必修	英語	6 単位					
	小 計		30 単位					
専門分野教育科目	必修	演習、 卒業研究	16 単位					
		その他			2 単位			
					学科間共通専門科目より 指定された 1 科目			
					10 単位			
	選択必修	学科間共通専門科目	16 単位		14 単位			
		学科間共通専門科目を 除く専門科目	20 単位		30 単位	30 単位		
			ソーシャルワーク 専門科目、臨床心 理専門科目より	基幹専門科目、ラ イフサポート系専 門科目、スポーツ 系専門科目、スポ ーツ実習系専門科 目より	コース間共 通専門科目、 競技スポー ツコース専 門科目より	コース間共 通専門科目、 スポーツト レーナーコ ース専門科 目より		
	選択	その他	42 単位		22 単位			
	小計		福祉心理学科の専 門分野の授業科目 のうち、選択必修 科目単位として卒 業に必要な単位数 以上修得した単位 及び本学部の他学 科の専門分野の単 位より		人間スポーツ学科 の専門分野の授業 科目のうち、選択 必修科目単位とし て卒業に必要な単 位数以上修得した 単位及び本学部の 他学科の専門分野 の単位より		スポーツ科学科の専門分野 の授業科目のうち、選択必 修科目単位として卒業に必 要な単位数以上修得した単 位及び本学部の他学科の専 門分野の単位より	
	合計		94 単位					
合計		124 単位						

## キ．施設、設備等の整備計画

### (1) 校地、運動場の整備計画

本学の第1キャンパスの校地面積は36,527㎡、校舎面積が36,511㎡であり、第2キャンパスの校地面積は50,292㎡、校舎面積が24,083㎡であり、いずれも設置基準を充たしている。坂戸キャンパス(総合グラウンド)は校地等面積が118,133㎡、建物面積が7,087㎡となっている。

第1キャンパスは主要駅である東武東上線霞ヶ関駅から徒歩で5分以内、第2キャンパスは同15分以内であり、JR的場駅から徒歩で約10分である。また、両キャンパス間も徒歩で10分程度と学生の移動に便利である。さらに坂戸キャンパス(総合グラウンド)は、東武越生線の西大塚駅から徒歩3分の至近であり、第1、第2、各キャンパスから専用シャトルバスで約20分の立地にある。

今回の「人間社会学部スポーツ科学科」は、人間社会学部の拠点キャンパスである第2キャンパスに設置する。

坂戸キャンパス(総合グラウンド)については、平成18年度より教育理念にスポーツ振興策を加え、約17.2万㎡(完成時)の総合グラウンドの整備事業を実施してきた。既設の第1グラウンド、第2グラウンドに加え、隣接地に新たに第3グラウンドを開発し、平成23年度末までに完成させる予定で工事を順調に進めている。

### (2) 校舎等施設の整備計画

校舎等の施設に関しては、講義室・演習室・学生自習室の総数は、第1キャンパスが学部用96、大学院用12、第2キャンパスが学部用65、大学院用13であり、円滑に運用している。これらの施設の他に、第1キャンパスには、体育館、大講堂、図書館、食堂などの11の施設がある。第2キャンパスには、図書館、スタジオ棟、福祉実習棟、トレーニングジム、食堂などの8つの施設がある。教員の研究室や学生の自習室及び多目的ラウンジ等については、各キャンパスにおいてそれぞれ十分に確保している。

各キャンパスの学部・研究科ごとの講義室、演習室等については、各室でビデオ・DVDの使用が可能であり、パソコン等のIT機器網を各キャンパスに網羅している。現在、本学の教育研究用の統合ネットワーク上に、高機能サーバーと800台余の最新鋭コンピュータを繋げた教育用マルチメディアネットワークシステムを稼働させており、多様な科学分析とIT活用環境を整備している。本学では、学生の授業出席状況や履修情報を本学独自のポータルサイトで確認でき、学生教職員が相互の情報受発信を可能としたネットワークシステムを整備している。

スポーツ科学科の設置キャンパスである第2キャンパスには、これらのIT施設設備の他に、トレーニングジム、スポーツ実験実習室、心理学実験室、ものづくり実習室、福祉実習室、スタジオ、TV編集室、日本語学習支援室等、多様な施設を整備しており、加えて平成23年度末までに臨床心理センター施設を設置する予定である。

### (3) 体育施設の整備計画

スポーツ施設設備については、ここ5年間で計画的に整備をしてきたが、スポーツ科学科の開設前年度の今年度から、さらに施設設備の充実を図っていく。

スポーツ科学科の設置キャンパスは第2キャンパスであるが、「陸上競技」「野球」「サッカー」「ソフトボール」、そして「ゴルフ」等のスポーツ実習系専門科目は、坂戸キャンパスで行う。「器械体操」「バスケットボール」「バレーボール」「柔道」等は、第1キャンパス体育館（3階建て、面積2,876㎡、約2000名を収容可能）で行う。「ゴルフ」の一部は、坂戸キャンパスの他に第2キャンパスのゴルフ練習場でも行う。「テニス」は、第2キャンパスのテニスコートで行う。

第2キャンパスには、テニスコート4面、バスケット・バレー兼用コート3面、ゴルフ練習場、トレーニングジム等の施設設備がある。

坂戸キャンパスには、第1グラウンドに、公式試合を行える全天候型の野球場、同じく公認サッカー場及びフットサルコート、野球の内野部分を収容した本格的な屋内練習場、教室・演習室、ミーティングルーム、各種トレーニング施設設備等を備えたフレンドシップハウスを整備している。第2グラウンドには、全天候型の第2野球場、同じく第2サッカー場及びフットサルコート、アーチェリー場、ゴルフ&スポーツサイエンスラボラトリーを整備している。第1、第2グラウンドに隣接して開発中の第3グラウンドには、陸上競技場（直線6レーンの全天候型400mトラックと人工芝の競技場）、ソフトボール場、多目的グラウンド施設等を平成23年度末までに完成させる予定である。

なお、既存の第2グラウンドのゴルフ&スポーツサイエンスラボラトリーのゴルフ練習施設は、動作計測・解析用モーションキャプチャーと撮影カメラ8台を備え、筋電図測定、運動解析をはじめ先端の科学分析が可能である。コンピュータールームには、データ収集と分析を行うための多機能パソコンを設置し専門ソフトウェアを導入する。ソフトボール場のミーティングルームには、プロジェクターとプラズマディスプレイ等を設置する。

#### (4) 図書等の資料及び図書館の整備計画

本学は、第1、第2の各キャンパスに総合図書館を置いている。学生数が最も多い第1キャンパスには、創学者を記念した「金子泰藏記念図書館」があり、この図書館の蔵書等に関しては、図書は350,441冊、定期刊行物は内国書が1,332種、外国書が1,156種である。また、DVD、レーザーディスク(LD)、ビデオ等の視聴覚資料が6,884点である。

スポーツ科学科が設置される第2キャンパスの図書館の所蔵図書は301,613冊、定期刊行物の国内書1,534種、外国書がAmerican journal of sports medicineをはじめ903種、視聴覚資料が7,828点である。本計画に際して図書資料をさらに充実させることとし、新たに275冊を購入する予定である。

本学のインターネットを介して学术论文・新聞・雑誌記事などを収録した国内外の主要なデータベース・電子ジャーナルが利用できるようにし、学習及び教育研究の充実をはかっている。国内データベースとしては国立情報学研究所(Nii)の論文情報ナビゲータCiNiiなど7種類、国外データベースとしてはEBSCOhostなど4種類が利用できる。

閲覧室に関しては、第1キャンパスの金子泰藏記念図書館の学生閲覧室席数は400席、第2キャンパス図書館の場合は座席数が589である。すべての図書館には、webOPACのネットワーク端末及び視聴覚機器を整備し、学生のニーズに適切に応えることに努めている。OPACについては、英語版、モバイル(携帯)版も提供し、図書館利用サービスの充

実化を促進している。

## ク．入学者選抜の概要

### (1) 学生の受入れ方針

人間社会学部は、社会・文化・福祉・心理、スポーツのそれぞれの視点から人間にかかわりを探究し、ひとの幸せのために、優しさと勇気をもって社会に貢献できる教養ある人材を養成する教育研究を目指している。この教育研究のもとに、スポーツ科学科は、人間諸科学の総合的な視点からスポーツの知識及び技能のみならず、幅広く深い国際的な教養と総合的な判断力・行動力、豊かな人間性を兼ね備えたスポーツ競技者（トップアスリート）及びその指導者を目指す人材を養成する。

これらの人材を養成することを目指すために、人間社会学部は入学者選抜にあたって求める人材像を次のようなアドミッションポリシーを掲げて明確にしている。

『現代社会の出来事に関心を持ち、人と人とのつながりを真剣に考え、社会に貢献できる人材を育成することを目指しています。将来、一般企業、行政機関、教育機関、健康増進関連施設、医療・福祉などの専門領域で活躍するために必要な資格取得に努力するだけでなく、その幅広い領域にかかわる知識を身につけながら、子ども 観光 現代社会 心理 福祉 スポーツ など、各自の関心ある分野で考える洞察力と行動する実践力を養います。他者と共に生きること、多様な文化の理解、心と身体の仕組みの探究、元気あるまちづくり等に意欲のある学生を求めています。』

従って、このアドミッションポリシーのもとに、スポーツ科学科の理念・目的に共鳴する受験生を、多様な選抜方法をもって選考し、受入れる。すなわち、

- ( ) スポーツを通して、社会・文化・福祉・心理の領域に興味を抱き、スポーツ科学科の志望理由を明確に持って学ぶことを目指す者
- ( ) 中学・高等学校の保健体育教員を目指す者
- ( ) 本学科に設置された各種資格取得を目指す者
- ( ) 学びを通してスポーツ界のみならずその他のさまざまな分野で活躍できる資質を身につけようとする者

などを受入れることにある。この考え方を実践するために、基本的には人間社会学部の次に示す多様な入学者選抜方法のもとに実施する。

### (2) 入学者選抜方法

#### (a) 一般入試

全学部で共通化され学力試験を中心とする一般入試を実施する。

#### (b) センター方式入試

大学入試センター入試を利用した入試を実施する。

#### (c) 推薦入試

本学が指定校とした高校の校長推薦による指定校制推薦入試と、本学の指定校にはよらない高等学校長の推薦による公募制推薦入試を実施する。さらに、入学後も学業とスポーツ（硬式野球、サッカー、女子サッカー、ゴルフ、女子ソフトボール、チア

リーディング、駅伝、硬式テニス等本学の指定するスポーツ)を両立する強い意志を持ち、高等学校長と本学の監督の推薦によるスポーツ推薦入試を実施する。これらの試験では面接を重視する。

(d) A O入試(アドミッションズ・オフィス入試)

A方式・B方式・C方式によるA O入試を実施する。A方式は、人間社会学部の理解と関心を持ち、強い目的意識を有する者を対象に課題レポートと面接により実施する。B方式は、高校時代のスポーツ・文化・ボランティアの分野で継続的に活躍した者を対象に面接により実施する。C方式は、アドミッションズ・オフィスによる複数回の面談を経て、学部教員と面接を実施する。

ケ. 資格取得を目的とする場合

取得可能な資格を次表に示す。

資格名	資格区分	取得方法	取得条件
中学・高校教員1種 (保健体育)	国家資格	資格取得可能	卒業要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要
スポーツリーダー (日本体育協会 共通科目)	民間資格	受験資格取得可能	卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能。資格取得が卒業の必須条件ではない
アスレティック トレーナー	民間資格	受験資格取得可能	卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能。資格取得が卒業の必須条件ではない
ピアヘルパー	民間資格	受験資格取得可能	卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能。資格取得が卒業の必須条件ではない
サプリメント アドバイザー	民間資格	受験資格取得可能	卒業要件単位に含まれる科目のほか、外部団体の講習・実習が必要

コ. 実習の具体的計画

教員免許取得の条件である教育実習については、本学教職課程委員会が中心になって具体的な計画を策定し実行する。

(1) 実習先の確保の状況

実習先は学生が出身校に直接依頼し確保する方法と、大学が市教育委員会及び県教育委員会に依頼し確保する方法を併用している。高校に関しては、大学が直接私立の高校に依頼する場合もある。実習の受け入れ依頼は、実習の前年に行う。

(2) 実習先との契約内容

教育実習費(謝金)は、学生が実習校において支払いの有無や金額を確認し、支払うように指導する。



### (3) 実習水準の確保の方策

実習のための学内ガイダンス及び教育委員会の主事または現職のOB教員の講演とディスカッションによる教職課程セミナーを実施する。また、教職の実習の水準の確保のため、2年次生に対して教職課程委員による個別面接指導を実施しているほか、教育実習直前の全体指導を行う。

加えて、履修カルテを導入し、教職に関する科目の履修及び単位の獲得状況を1年次から記入させ、かつ履修した教職科目の教員によるコメントを加えるなどして、4年次の教育実習に至るまでの管理を自己と大学の両方から行うシステムを実施する。

### (4) 実習前の準備状況

実習の前年度中に、麻しん抗体検査を受けさせ、必要な学生にはワクチンを接種させる場合がある。さらに教育実習履修者には、損害賠償責任保険に加入させる。

### (5) 事前・事後における指導状況

事前指導は、4月に集中して実施している。教職課程委員長をはじめ教職課程委員の教員が中心になって、実習先での心構えや留意点などについて、詳細な指導を実施する。事前指導の時間を欠席した学生に対しては、委員長からの厳重注意がなされるほか、別個に指導を行う。

事後指導は、前期及び後期のそれぞれに、実習を終えた学生を集め、実習のフィードバックを行い、反省点や改善点のポイントを挙げ検討する機会を持つ。その際に、実習後に作成した「教育実習をふりかえって」をまとめたものを活用する。

### (6) 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

巡回指導計画については、教職課程委員会において作成する。専任の教員5名からなる教職課程委員会が、実習生の演習(ゼミ)担当教員に依頼し、原則として大学から2時間の交通圏内の実習校を巡回し、指導する。演習担当教員の都合が悪い場合は教職課程委員が担当する。ゆえに、巡回指導に関わる教員は、教職課程委員会に属する教員と実習生が所属する演習担当教員との連携による。

### (7) 実習施設における指導者の配置

実習校の訪問は、特に学生が研究授業を行う日を原則として選び実施するが、実習校においては、実習校における実習学生の担当教員の指示に従い行動する。従って、本学から実習施設への特別な配置は行わない。

### (8) 成績評価体制及び単位認定方法

実習校より提出された実習評価及び次の「学生に与える課題」を踏まえて総合的に判断する。

#### [教育実習前]

- ・教育実習校の概要をまとめる。
- ・教育実習における課題(教育実習での「自分のねらい」を明確にする)をまとめる。

#### [教育実習中]

- ・教育実習日誌を作成する。
- ・学習指導案を作成する。

#### [教育実習後]

- ・自己評定票を作成する。

- ・「教育実習をふりかえって」(教育実習前に掲げた「自分のねらい」の達成状況)をまとめる。
- ・教育実習レポートをまとめる。(教科指導等の専門職としてのテーマを掲げたりレポート)

(9) 実習先が遠隔地などの場合は、その意義や巡回指導計画上などの配慮

大学の規定では、原則として大学から 2 時間の交通圏外にある学校以外の場合は、原則として巡回指導は行わない。ただし、学生及び実習校または当該教育委員会の要望がある場合は、2 場間の交通圏外でも巡回指導を行う。

セ. 2 つ以上の校地において教育を行う場合

スポーツ科学科の設置キャンパスは第 2 キャンパスであるが、授業の一部は、第 1 キャンパス及び坂戸キャンパスで行う。スポーツ実習系専門科目のうち、第 1 キャンパスの体育館において「器械体操」「バスケットボール」「バレーボール」「柔道」、坂戸キャンパスにおいて「陸上競技」「野球」「サッカー」「ソフトボール」「ゴルフ」を行う。また、「コンディショニング演習」「アスレティックトレーニング現場実習」等は、坂戸キャンパスで行う予定である。

第 1 キャンパスと第 2 キャンパス間は徒歩で 10 分程度であり、坂戸キャンパスには第 1 及び第 2 キャンパスから専用シャトルバスで約 20 分程度である。専任教員の研究室はすべて第 2 キャンパスに配置されている。学生及び教員の移動等に大きな問題はない。坂戸キャンパスでの授業については、1 日単位での履修が可能なように時間割の設定を行い、移動が少なく済むように配慮する。

ツ. 管理運営

スポーツ科学科の運営管理は、人間社会学部教授会(以下、教授会)のもとで行う。教授会は、本学部の専任教員によって構成され、開催は学部長が行い、原則として月に 1 回開催される。教授会の運営や教育課程については、学部執行部(学部長・学科長)と学部委員会がカリキュラムの変更、進級卒業の判定等の原案作成の作業を行い、教授会の審議を経て、実施に移される。なお、学部のカリキュラム変更などの事項に関しては、学部で決定した案を、大学評議会で審議・決定し、加えて他の学部教授会での承認を受け、最終的には学則改正になるので理事会で審議・決定される。また、入試の合否判定は学部の入試委員会で原案を作成し、教授会で審議する。

テ. 自己点検・評価

本学は、平成 22 年度に大学基準協会に認証評価を申請し、「評価の結果、貴大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。認定の期間は 2018(平成 30)年 3 月 31 日までとする。」との評価結果を得ている。

スポーツ科学科の自己点検・評価については、本学で既に実施している自己点検・評価の枠組みにあわせて実施する。

## ト．情報の公表

本学では、学校教育法第 113 条及び学校教育法施行規則第 172 条の 2 に対応して、教育研究活動等の状況に関する情報を本学ホームページ (<http://www.tiu.ac.jp/>) の「情報の公表」([http://www.tiu.ac.jp/n\\_about\\_tiu/about/disclosure.html](http://www.tiu.ac.jp/n_about_tiu/about/disclosure.html)) において次の通り公表しており、最新の情報については、随時ホームページの更新をしている。

### 『1. 大学の概要～基本情報

#### (1) 建学の精神

#### (2) 教育研究組織図

#### (3) 役職者

#### (4) キャンパス概要

校地校舎データ、交通アクセス

#### (5) キャンパスマップ

第 1 キャンパス、第 2 キャンパス、坂戸キャンパス、TIU アメリカ校

### 2. 教育と研究

(1) 商学部、経済学部、言語コミュニケーション学部、国際関係学部、人間社会学部  
学部については、学部・学科ごとに、名称、教育研究上の目的、アドミッションポリシー、シラバス・年間授業計画、履修モデル、卒業要件単位、取得可能な学位、学位授与の方針、教員一覧（教員氏名、担当科目、担当ゼミ説明、研究業績、主な著書・論文、学歴・学位、所属学会・社会活動等）を公表

(2) 大学院商学研究科、大学院経済学研究科、大学院国際関係学研究科、大学院社会学研究科、大学院臨床心理学研究科

大学院については、研究科毎に、名称、課程、専攻、教育研究上の目的、アドミッションポリシー、シラバス・年間授業計画、修了要件単位、取得可能な学位、学位授与の方針を公表

#### (3) 学則

学部学則、大学院学則

#### (4) 学位規程

学位規程（学部・大学院）

### 3. データで見る東京国際大学

#### (1) 学生に関するデータ

学生数（収容定員・在学生数）、入学者数（編入学を含む）、卒業・修了者数、進学者数・就職者数

#### (2) 教員に関するデータ

教員数（男女別）、年齢別教員数、教員一覧（研究業績等）

### 4. キャンパスライフと学生支援

#### (1) 授業料・奨学金・寮費

授業料等、奨学金制度、寮費

#### (2) 学生サポート

就職支援、保健室・学生相談室、課外活動

### 5. 特色ある教育

- (1) 充実した留学制度
- (2) スポーツへの取り組み
- (3) 現代 GP
- 6. 法人情報、財務情報
  - (1) 事業報告書
  - (2) 財務データ
    - 資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表、財産目録
  - (3) 監事の監査報告書』

#### ナ．授業内容方法の改善を図るための組織的な取組

「大学設置基準第 25 条の 3」に対応し、FD 委員会主導により全学統一の授業評価を実施しているが、人間社会学部も教育改善への組織的な取組として、学生による授業評価を毎年実施している。この授業評価は、個々の教員そして学生にも公表されているが、結果の有効的な活用に関しては、そのつど教授会や配布物でも呼びかけている。また、教育改善は教員個々においても行われている。また、毎年定期的に FD 委員会が計画・主催し、全学の教員を対象として授業内容の改善や方法等に関する専門家による講演会と指導の機会を設けている。

その他の組織的な取組としてはオフィスアワー制度を設け、学生の学習上の疑問等にも答えている。

スポーツ科学科においても、上記の枠組みの中で授業内容の改善を図るための組織的な取組を実施する。さらに、演習 担当者会議を早期に開催し、演習の活性化方法、時間割編成上の考慮、スポーツ学生支援体制を検討する。

## ニ．社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

### (1) 教育課程内の取組について

本学部は、平成 19 年度から社会的な貢献及び職業的な自立に関する科目を段階的に拡充し実施している。平成 19 年度に新しいカリキュラムを導入し、教育の質の向上をはかるために学部の理念・目的により適合した科目の設置などの拡充を実施している。特に、社会的な貢献及び職業的な自立に関する実践的教育を目指す科目として、(1)聴覚障害の学生や肢体不自由な学生の授業支援を行うノートテーカー、小中学校の不登校児童・生徒の復帰支援を行うスチューデント・サポーターなどの学生のボランティア活動に対し、参加学生のボランティア教育を充実させる科目「ボランティアワーク」の設置、(2)企業体験学習を行う科目「インターンシップ」の設置、さらに、(3)平成 20 年度から、入学後の進路教育をはかる科目「キャリアプランニング」の設置をはかってきた。

平成 23 年度から、「キャリアプランニング」は、科目「キャリアプランニング」と改め、全学共通カリキュラムとして設置され、1 年次に開講し、卒業後に、社会の一員として社会に適合し、生きていくという「キャリア」としての考え方と意義について指導を行う。そのシラバスを資料 D に示す。さらに 2 年次以降では科目「キャリアプランニング」により、卒業後の進路として、職業の分野別・目的別に即した仕事の理解や意義を学び、キャリアプランニング形成を目指す指導を行う。さらに、科目「キャリア

プランニング」により、キャリアプランニング形成のための実践として、資格取得に直結した実務・技術の習得を目指す指導を行う。

新設するスポーツ科学科では、「キャリアプランニング」及び「キャリアプランニング」による専門別・業界別キャリア支援を活用し、スポーツ・キャリアプランニングの取組をはかり、スポーツに関連した職業で自立するための仕事の理解や能力の育成をはかり、スポーツ関連施設や企業でのインターンシップへとつなげていくことをはかっていく。

(2) 教育課程外の取組について

本学では、教育課程外に次の取組を行っている。

(a) 「就職支援システム」による取組

- ( ) 新入生向け就職ガイダンスとして、新入生に対する就職の取組についてのガイダンスを学部別に開催
- ( ) 学年別就職ガイダンスとして、2年次生に対する各種セミナーの開催、3年次生に対する就職講座等の開催、4年次生に対する学内企業説明会等の開催

(b) 「資格取得サポート」による取組

学内に設置されているエクステンションセンターにより、就職支援対策講座や国家試験をはじめとする各種資格取得対策講座を開講し実施している。エクステンションセンターにおいて平成23年度に開講している講座の一覧を下記に示す。スポーツ科学科の学生においても進路対策の講座として有効な講座が多く設置されているが、今後はさらに、スポーツに関連した各種資格取得対策講座の開講を検討していく。

2011年度 エクステンションセンター開講講座

種別	講座名
就職対策講座	SPI 就職試験対策講座
	公務員試験対策(教養)講座
	公務員9月試験直前講座
	秘書検定2級講座 春期
	秘書検定3級講座 秋期
	サービス接遇検定(2級)(準1級面接)講座
	ビジネス文書2級・3級講座
国家資格	宅地建物取引主任者講座
	(総合) 旅行業務取扱管理者講座
	(国内) 旅行業務取扱管理者講座
	F P 技能検定3級講座
	I T パスポート試験講座
	基本情報技術者講座
	社会福祉士講座
	精神保健福祉士講座

	保育士(筆記対策)講座<全科目・1科目>
	保育士(実技対策)講座
ビジネス	海外ツアーコンダクター(総合旅程管理主任者)
	日商簿記検定3級 講座(春期)
	日商簿記検定3級 講座(秋期)
	販売士検定2級講座
	色彩検定2級講座
	ビジネス実務法務検定3級講座
医療	医療事務講座
語学	TOEIC(春期)講座
	TOEIC(夏期)講座
パソコン	MOS(WORD)講座
	MOS(EXCEL)講座
	パソコン検定3級講座
	パソコン検定準2級講座
その他	サッカーC級コーチ養成講座

### (3) 適切な体制の整備について

本学では、開学以来、学部横断的な全学組織として進路指導委員会を設置(各学部から代表委員により構成)しており、全学で組織的に、社会的・職業的自立に関する指導等の実施をはかってきている。

- ( ) 就職課では、学部ごとの担当スタッフが学生一人ひとりの希望や適性、就職活動の進展状況を把握し、適切なアドバイスを行うサポート体制の実施
- ( ) 第1キャンパス・第2キャンパス・坂戸キャンパスに加えて、新宿・大手町・大宮・高田馬場の法人本部の7拠点にキャリアサポートセンターを設置し、就職活動支援を実施。新宿・大手町・大宮の拠点では、専門のコンサルタントが直接指導する。